

未

別紙ハ西条喜八十二号ノ十月十七日付

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

西村正六位殿

安田定利殿

以任者甚殿

杉浦中判左

本後所轄砲兵并高港弁天岬砲
其臺より先の記載し通中月十三日
当所より浪隈軍大尉吉利用通に
大之典系速着品引渡あり海
たるをなするに執達しりしに
且而院の御方より達の方木の状

用所使

振つてふと直りしと不乃の伝教の如

の法六年十月十七日

二件一、本年の法載の徳を傳ふに
就て四石一千一十石の置し居るに
必用しふは酒方を計ト知

開封

渡島國函館藩天甲砲臺調

一 地面 延宝五年千五百五十二坪余

一 建家七十九坪 一棟

一 九十三坪五分 一棟

一 二十一坪 一棟

一 二十五坪 一棟

一 四十二坪五分 一棟

一 八十坪 一棟

開拓使

古建家ハ侍家ニ其共ニ引渡ス

砲多ク人少ク

照準士

種川重吉郎

津田清吉

田原信三郎

一ツ砲兵

大川道郎

中山新一郎

村田雪次郎

二ツ糸良輔

佐々木良輔

福田福次郎

上田逸平

目麻良三進

能系昇

芦田高三

二ツ砲兵

石原崇三郎

丸山茂吉郎

用石使

開抄

平田若吉郎

渡邊良吉

成田若吉郎

原田若吉七

若田若吉郎

馬場若吉郎

金田若吉郎

山村千三郎

一宮喇以子

村田若吉郎

ちし通考也

明治六年十一月

開石使

陽抄

第九拾七号

開拓中判官榎本武揚

右ハ御用ニ付本月廿日北海道ヨリ出京致候條此段御届申上候也

明治六年十二月廿二日

關拓次官黒田清隆

右大臣岩倉具視殿

月名

一九号

廿二
東京